

県政モニタートーク 結果概要

対話テーマ ウェルビーイングの実現に向けた環境学習に関するアイデア会議
日時 令和7年8月26日（火）19時00分～20時30分
参加者数 県政モニター 9名、県（環境政策課）3名

《概要》

本会議では、県政モニターを3つのグループに分け、2つのテーマについてグループディスカッションを行って多数のアイデアを出していただき、この発表を通して、県職員や他のグループから質問・意見交換を行うことで、アイデアの深掘りを図った。

《いただいたご意見（抜粋）》

① 貴方がイメージするウェルビーイングとはどのようなもの・状態ですか。

- ・ 幸せに感じること。
例）運動、休憩、自分の時間、動物や植物との時間、美味しいものを食べる、推し活
ほっとしているとき、信頼している友達と会っているとき
- ・ 水があるという心の安心、調和とバランス
- ・ 「琵琶湖があってよかった」と思えること。琵琶湖に関する様々な活動・取組で満足感を得ているはず。
- ・ 安全に生活できること（争いが無い、災害に強い、自助・共助・公助ができる）
- ・ 健康であること（自分の足で歩ける）
- ・ 自然と戯れられること（山、湖、街が活性化・呼吸をしている）

② イメージしたウェルビーイングの実現のためには、どのような環境学習が必要だと思いますか。

- ・ 「美味しい」を切り口に、給食などで滋賀の「食」を中心としたアプローチを行う。食だと、調理も含めて五感を使った学習なので、良いのではないかな。世代も関係なく学べる。
- ・ 子どもだけでなく、大人（親）も含めた環境学習を推進する。
- ・ 校外学習など、自然に触れる機会を増やす。
- ・ 「うみのこ」で終わることなく、継続して、大人になってからも環境学習に触れられる機会をつくる。
- ・ ゆるキャラや推し活（聖地巡礼）、ビワイチなども活用し、まずは滋賀・琵琶湖のことを知ってもらう。
- ・ 県民が環境を維持していく文化をつくっていく。
- ・ 色々な人たちが環境学習に取り組んできたが、つながりがまだまだなように感じる。点を線に、線を面にしてくれるようなリーダーが必要なのではないかな。そんなリーダーを育成することが大事ではないかな。

③ その他

- 市町単位だと教育内容にも差（偏り）が生じがちで、「うみのこ」以降も琵琶湖などに関する環境学習を受けられる市町もあるが、彦根市では彦根城に関する学習が多くなった。県が先導することで、「うみのこ」以降も平等に学ぶ機会を与えられないか。

《県からお伝えしたこと》

- 食は世代を問わず関連する要素。確かに「美味しい」という感情は、生き物や自然を大切に思うきっかけや原体験になりうる「感動」と考えることができ、ハッとさせられる部分があった。
- 「青い空、きれいな夕焼けが子どもや孫の世代までいつまでも続く」ということも1つのウェルビーイングだと考えたが、「世代を超えての交流」という話に通ずると感じた。県施策でも、親子交流の自然体験が多くあるが、改めて大切な取組であると感じた。
- 大人になってからも環境学習に触れる機会は存在するものの、なかなかそれが伝わっていないのが現状だと思う。どうやって幅広に情報を届けるのか、というのも大切。ただ、興味がない人にはそもそも情報が届きにくくなっているのが今のSNSの仕様なので、幼少期の環境学習を大切にし、いかに興味がない人を減らして情報が届きやすい人を増やすのか、というのも大切ではないかと感じた。